

令和4年度第4回北杜市子ども・子育て会議 会議録

開会日時 令和5年3月24日(金) 開会:13時30分 閉会:15時30分

開催場所 北杜市役所大会議室

出席者

民生委員・児童委員協議会会長 清水 真理子 委員長
民生委員・児童委員協議会(児童福祉部会)会長 小澤志保子 委員
民生委員・児童委員協議会(児童福祉部会)副会長 清水もとみ 委員
北杜市母子愛育会会長 小宮山幸枝 委員
北杜市食生活推進協議会会長 田中 律子 委員
北杜市放課後子ども教室コーディネーター代表 矢崎 元子 委員
北杜市PTA連絡協議会副会長 清水 好美 委員
北杜市保育園保護者連合会副会長 功刀 雅美 委員
青少年育成北杜市民会議会長 跡部 元 委員
North tree(NPO法人ほくと育ちあいのもり)理事長 平出ユウ香 委員
北杜市保育協議会会長 菰澤ふみ子 委員
北杜市保育協議会副会長 大久保初美 委員

(事務局)

子ども政策部長 大芝 一、子ども政策部参事 小澤 茂、子育て政策課長 中澤 徹也
子育て政策課総務企画担当 坂口 美穂、子育て政策課子育て応援担当 大柴万三子
子ども保育課長 齊藤 栄慶、子ども保育課保育担当 白倉 健
ネウボラ推進課長 河手 貴、ネウボラ推進課保健指導監 白倉 百合香
ネウボラ推進課ネウボラ推進担当 天池 栄子

欠席者

帝京学園短期大学教授 吉田百加利 副委員長
北杜市PTA連絡協議会会長 森本貴代美 委員
北杜市PTA連絡協議会副会長 名取 政義 委員
北杜市保育園保護者連合会会長 野呂 友恵 委員
北杜市商工会会長 小野 光一 委員
北杜市校長会代表 有賀 望 委員

議題

- (1)第2期北杜市子ども・子育て支援事業計画の改訂について
- (2)こどもランド・こどもパークの進捗状況について
- (3)放課後児童クラブの運営について
- (4)保育園の運営について
- (5)出産・子育て応援事業について
- (6)子ども家庭総合支援拠点の設置について
- (7)北杜市結婚新生活支援補助金について
- (8)北杜市転入子育て世帯家賃補助金について

公開・非公開の別 公開

傍聴人 なし

議事

- (1) 第2期北杜市子ども・子育て支援事業計画の改訂について
- (2) こどもランド・こどもパークの進捗状況について

－資料に基づき事務局から説明－

議長

質問等あるか。

委員

こどもランドこどもパークについて、はじめに見せてもらった時は、ここまでできているのかと感じ、北杜市PTA連合会では心配していた。様々なご意見が皆さんから寄せられて、それを反映させたものを今回示していただいていると思う。皆さんの声を形にしていけると言う事はありがたい。

一方、こどもランドこどもパークの計画を、明野小学校のPTA役員会や授業参観等の際に、皆さんに知っているか聞いたところ知っている人がいなかった。PTA連合会の役員の中では、少ない人数の委員で検討して計画を進めるのは怖いという意見もあった。より多くの皆さんのところに情報が届く、知っていただく作業を大切にしていきたい。知らなかったと言う皆さんの中には知りたかったと言う人もいる。知っていただくことでこの事業に対する応援者を増やしてほしい。より丁寧に情報発信と言うものをしていただきたい。素敵な事業なのでより多くの保護者の皆さんにお伝えいただく工夫をしていただきたい。皆さんのアイデアを形にしていきたい。また会議の傍聴ができるということも、知らせていただきたい。興味のある方、関心のある

方は足を運んでくださると思う。聞いてくださる方がいれば周りの方に伝えてくださる。会議が行われていること、傍聴ができる事を知らせていくことも大切だと思う。会議の内容をホームページに載せている、公開していると言うだけではなくて、そこまで探っていないと見られないような形ではなく、黙っていても情報が降り注ぐような、こちらから子育て世代の皆さんを迎えに行くような丁寧な情報発信をぜひやっていただきたい。

議長

これまで計画をどのように周知してきたのか、今の提案を受けて今後どうしていきたいのか、また計画について、今後いろいろな要望が出てきたときに反映はできるのか、その3点を伺いたい。

事務局

こどもランドこどもパークを作るきっかけとなったのは、子育て世代の方から、安心して遊べる場所が欲しいと言う声が多くあったためである。皆さんが、どのような遊具のある、どのような公園が欲しいかと言う要望を集めるため、昨年4月に子育て世代の方を対象にアンケートを行い、たくさんのご意見をいただいた。これを集約した形で、今回のこどもランドこどもパークの原型ができた。

現在は、ホームページで、こどもランドこどもパークのイメージを公開している。本日のこの子ども子育て会議を経て、皆さんにご意見をいただいた後に、現在の状況については、ホームページで公開をしていきたい。委員さんから情報を取りに行かなくてもいいよう、情報を届けてほしいと言うご意見があったので、今後そのような工夫をしていく。

また、要望については、採用できるものと採用できないものがあると思うので、なるべくその声を反映させられるような工夫はしていきたい。

委員

複合施設としてこどもランドこどもパークが整備される事について、とても嬉しく思っている。一方、各地域にも小さな公園がある。子育てしているお母さん方は、車に乗せて子どもを連れて行くにはここが良いと言うことになると思う。しかし自分の家の周りで少し散歩をしたいと言うときには、各地区の公園を利用することになると思う。自分の身近なところにある公園の遊具整備もしていただけるとありがたい。

先ほど他の委員からあった、自分たちから情報を取りに行くのではなく、情報を届けてほしいと言う意見については、今の世の中は自分たちで情報を取りに行くと言う時代だと思う。私はいろいろなところで、このこどもランドこどもパークについての情報を耳にした。だから知っている人が少ないというのは意外だった。これだけ市が一生懸命やっているという部分については、ぜひ考えていただいて、自分たちで情報を取りに行く努力もしてほしい。双方がそれなりに努力することが大切だと思う。

委員

昨年、市長と語る会があり、出席したところ、年配の方が、こどもランドこどもパークについて、

たくさんのお金を作って使ってそんなものを作る必要があるのかという意見を出していた。市長からは、子育て世代の方からたくさん要望があって、北杜市が子ども子育てのまちであることをPRするため、このような事業を進めていくと言う答弁があった。こどもランドこどもパークの計画については、私もいろいろな意見を出したが、たくさん反映していただいて嬉しいと思っている。お金はかけるが、それに見合っただけのみんなから認めてもらえるようなこどもランドこどもパークを作っていくことが大事だと思う。高齢者と子どもたちが触れ合えるような公園にしてほしい。こどもランドについて、収容できる子どもの数はどれぐらいか。

事務局

公園については、大きい公園が欲しいと言うご意見と、自分の住んでいる地域の身近な公園を充実させて欲しいと言う2つの意見があるので、市全体で公園を見て、それぞれの公園が補いあいながら、遊具の整備なども進めていければと考えている。

こどもランドには何人ぐらいの子どもが入れるかということについては、親子で1日あたり60人、目標としては年300日開設で1年間で1万8000人の利用を目指して運営していきたいと思っている。具体的な運営については、来年度、子ども子育て会議にて、皆さんにご意見を伺いたい。

委員

子ども子育て支援計画へのこどもランドこどもパークの記述について、情報提供の項に載せると言うことだが、今回整備する複合施設と情報提供や相談等の事業がどのように結びついているのか示されていない。整備されることによってどのように親子にアプローチしていくのかと言う部分について、記載していく必要があるのではないか。

自分はひよこルームと言うつどいの広場を運営させていただいている。そこに来た親子にこどもランドこどもパークについて、たくさん意見を聞いている。それらの人たちからは、アンケートであったものですよとか、新聞で見ましたとか、皆さんなんとなくは知っている。しかし全体像がわからない。イメージ図を見せると、こういうものだったのかと驚かれる。興味を持ってもらうことによって意見がたくさん出てくる。私だったらこうなっていたらいいとか、こうやったら使いやすいのではないかとするたくさん意見が出てきたので、すべての意見を行政に届けさせていただいた。こどもランドこどもパークについて、興味がない世代は興味を持たない。ただ興味があるとか、気になっていたと言う人を巻き込む仕組みは大事だと思う。興味を持っている人こそアイデアがあったり、こうなったらいいなと言う思いがあったりする。そういう人を巻き込んで応援者にしてほしい。高根町に公園ができても行かないからという理由で、明野の人は興味を示さなかった。興味の地域差もあると思う。こどもランドにかかわらず、市はいろいろな方法で情報提供してくれているが、いろいろな人から聞くのは情報をつかみづらいと言うこと。情報までたどりつかないと言うことをよく聞く。子どもを産んだ時に、窓口でどのような子育て支援があるのか、以前は子育てガイドブックがあったが、今はまとまったものがない。制度も変わると思うが、病院の情報だったり、1冊にまとまっていれば良い。ホームページもある

が、見やすさや情報の探しやすさなど、より工夫してほしい。

こどもランドこどもパークについて、この名称はこのままなのか。お母さん方から、名称について疑問に思うと言う意見が聞かれる。こどもランドというと子どもしか使えないイメージがある。高齢者の方も地域の方も、いろんな世代と一緒に集うと市の大切な場所になると思う。ランドと言うイメージを出してしまうと、おしろらんどやディズニーランドのような、テーマパークのイメージを持たれてしまう。子育て支援施設として、子育て拠点事業を行っていくのであれば、それをしっかり伝えて、子育て支援施設や、子育て支援センターといった名称を出した中で、愛称をつけてほしい。そのような形で進めていただけたらと思う。皆さん多くの期待を寄せている。県内や市外からも興味を持っていただいている。市として、自然豊かなと言うイメージがある。そういうところにこだわりがある施設は、魅力である。それによって移住される方もいる。優しいぬくもりを感じられるような、北杜市らしいイメージを施設に反映させてほしい。

事務局

子ども子育て支援事業計画への書きぶりについて。こどもランドでは、利用者支援事業やファミリーサポート事業、子育て支援拠点や一時預かり等の事業を行う予定である。これらの事業を実施することで子育て世代の方に必要な子育て支援をつなげることを考えている。遊び場を介して、他の親子との交流や情報交換をしていただき、子育てに関する相談体制及び情報提供の充実につなげるため、その項に今回は掲載させていただいた。また市にはたくさんの計画があり、その最上位計画として、北杜市総合計画がある。子ども子育て支援事業計画は、北杜市総合計画の下に位置する計画となる。そのため総合計画での書きぶりとも合わせていただきたいと思います。考えており、その点はご了承いただきたい。

こどもランドこどもパークの名称については、仮称と言うことで進めさせていただいている。今後どうしていくかについては、検討していきたい。

(3)放課後児童クラブの運営について

－資料に基づき事務局から説明－

議長

質問等あるか。

委員

自分は白州小学校に、午前中、学習指導員として入らせていただいている。放課後児童クラブが空き教室に設置されるということについて、現場の先生の声も聞きながら、子どもたちや保護者のニーズにとってどのようなものが求められているのか、間近で見聞きさせていただいている。学校に放課後児童クラブができるというのは、言葉を選ばずに言わせていただくなら、現場の先生からすると異物のように感じている印象を受けた。同じ校舎内で共有する時間をどのように捉えたらいいのか、先生方も色々と思いをめぐらせる部分もあると思うが、学校内放課後児童クラブの設置については、学校側にも理解、協力、応援してもらえるような相互理解を図

り、一番は何より子どものための事業であることを大切にしていきたい。私自身は、校内に放課後児童クラブのスペースができることで、これからどのような化学反応が起こるのかとても楽しみで、新たな展開にも期待している。保護者としても、教育に関わるものとしても、子どもたちにとってより良いサポートをしていきたい。放課後児童クラブの場所を、放課後児童クラブが開催される前の時間、フリースクールなど子どもたちの別の居場所にするか検討されているのか、またそのようなご意見や要望はあつたりするのか伺いたい。

委員

自分の子どもは放課後児童クラブには入所していないが、住んでいる小淵沢町の場合は、放課後の居場所が放課後児童クラブしかない状態である。一方で教員の働き方改革と言うことで、子どもが小学校に一時的に残るのも難しくなっている。

議長

北杜市には児童館がない地域はいくつあるのか。

事務局

学校の中で放課後児童クラブを行うのは、今回が初めての試みである。今のところ、放課後児童クラブのための場所であり、他の用途で使う事は考えていない。学校の先生とのコミュニケーションも含めて、子どもに、いかに安全に過ごしてもらおうかと言う事について先生と支援員とは同じ思いでやっていると考えており、打ち合わせもして、このような場合にはこのような対応を取ると言うような覚書も交わす中でやっていく。課題が出てくれば、運営していく中で改善していく。

学校でも、放課後の児童の居場所については考えており、授業参観や先生などの研修があるときには、学校によっては図書室で過ごしたり勉強したりなど、学校は学校で考えてやっている。また、市ではだれでも参加することができる放課後子ども教室を、学校が早く終わるときに実施している。放課後子ども教室にはコーディネーターがおり、学校や各地域のスタッフの方とも調整とりながら、少しでも放課後の居場所となるよう実施している。

児童館については、明野、須玉、大泉、武川の4つとなっている。それ以外の4つの町にはない。

委員

自分は、放課後子ども教室のコーディネーターをやっている。放課後子ども教室は地域のボランティアの方たちに協力いただいて、成り立っている。ぜひお手伝いして下さる方をお願いしたい。

- (4) 保育園の運営について
－資料に基づき事務局から説明－

議長

質問等あるか。

委員

定員に対しての入園予定者数を見ると、余裕があるように見える。実際の保育現場を見ると、そういう印象ではない。保育者の配置など、保育園を運営するにあたっての余裕はどのようなものなのか。

事務局

定員に対して入所者数は、約63%となっている。しかし定員については、施設の大きさから算出したものである。保育士には配置基準があり、例えば0歳児については1人の保育士は3人までしかみることができない。1歳2歳児については、6人までしかみることができない。そのような保育基準で今の保育士を配置したところ、ギリギリの配置となっている。フルタイムの保育士だけでは、この入所者数を賄うことができず、時短で働いていただける保育士、代替と呼ばれる保育士をフル活用した中で、この入所者に対応している。依然として保育士は不足しており、いろいろな方法で保育士の募集を続けている。

委員長

毎年入所者数によって、保育士が配置されているのか。

事務局

入所者数に応じて配置すると言うのではなく、保育士の先生方が足りるようにどうにか配置をしていると言う状態である。3歳未満児の数が増えれば増えるほど、保育士が必要となる。市の保育園としても3歳未満児を受け入れる枠には余裕がない。3歳以上児になると、保育士1人で20人みられるので、多少の余裕はある。入所者が決まってから保育士を配置することになると足りない可能性が出てくるので、そこは同時進行でやりくりをしながら配置している。

委員

育休を取ったときに、上の子は保育園に行っていた場合でも、お母さんは働いていないからという理由で保育園を出されてしまうと聞く。いろんな家庭の事情の中で、上の子と下の子が違う保育園に行くと言う事情もあるようである。市として子どもを育てやすい環境を作ると言う部分では、国の政策を飛び越えた、支援はできないか。

事務局

育児休暇に関しては、一年間はそのままお預かりをする。また兄弟姉妹が同時入園ができない方がいらっしゃる。保護者の立場になれば大変であると言う事は重々承知はしている。例えば、年度始めの4月入園であれば、上の子と下のお子さんが一緒に保育園に入れるように我々も考慮している。しかし就労の条件や優先順位等、保育園は入所基準を設けて、入園を決めているため、年度途中の場合には、未満児さんは希望の保育園に入れられない場合が出てくる。しかし年度が変わる際に、転園を希望するような申し込みがあれば、優先順や就労状況を確認した上で総合的に勘案し、できるだけ希望に添えるような対応をしている。

委員

保育園の先生方が、学校を出て、いよいよ研修となるときてくれないと言う理由は、自分たちの仕事に対して、価値つまりは給料が低いと思っているからである。北杜市は子育てにやさしい、子育てしやすいところを目指すのであれば、見直しをして、基準をあげないと保育士不足が続いてしまう。子どもへの補助だけではなく、子どもの環境改善に努めてほしい。

(5) 出産・子育て応援事業について

(6) 子ども家庭総合支援拠点の設置について

－資料に基づき事務局から説明－

議長

質問等あるか。

委員

子どもを産み育てる人には最大の援助をしてほしい。現在子どもを出産するときには平均的にどれぐらいの出産費用がかかっているのか。個人負担はあるのか。出産の費用は全て、国なり自治体が負担すべきだと思う。生んでくれてありがとうとしないと、少子化はどんどん進んでいく。地域活性化は、子どもや若い人がいないとどうにもならない。出産費用については、ぜひ全額負担をしてほしい。

事務局

出産費用については、お母さん方からも出産費用が高いと言う話を聞いている。聞いているところでは50万円から80万円となっている。現在は出産一時金42万円が出ている。残りの部分が自己負担となっている。国も4月から、出産一時金を50万円に上げることを決めている。

委員

孤育て、1人で子どもを見ると言うことがとても気になる。アンケートなどで大体わかっているのか。状況を把握する方法が、もしある程度できているならば、どれぐらいの孤育てをしている人がいるのか。1人で育児をしていると言う家庭があるのか教えてほしい。

事務局

よりお母さんに寄り添った支援をするため、母子手帳を交付するときに1時間以上かけて面談を行い、そこで困っている事はないか、悩んでいる事はないかを聞き、出産に支援者がいない場合や、気分が落ち込みそうなお母さんについては、どのようなサービスを使っていくか考えて支援している。寄り添って支援を行うことで、孤立化してしまわないように心がけている。すでに孤立化してしまった場合には把握しにくいので、孤立しないように、赤ちゃんが生まれてからも、保健師が行って状況を確認させていただいたり、4ヶ月以内には利用者支援員が伺ったりしている。これが終わると、子育て広場等への利用等へつなげるようにしている。地域では愛育会などの方たちに、子育てをしている人への声かけや見守りなどをしていただいている。

委員

関わっている方のつながりで子育てしている方の孤立を防ぎ、連携をとっていけると良い。

委員

自分は蕪崎市でこども食堂の理事をやっている。コロナ禍で食堂が開設できない分、フードパントリーという食材提供を行っている。食材提供をする対象は、グレーゾーンにいらっしゃる方たち。行政の補助やサポートが届く方たちは良いが、行政の補助の対象にはならない、子どもがたくさんいたり、生活困窮になりそうな人たちに対して活動をしている。福祉課との連携を密にして進めている。行政とNPOがつながりを持つことは大切なことである。子育て世代の方を対象にいろいろな事業展開をされている方たちとも情報共有をして、いろいろなサポートや、子どもの健やかな成長につなげてほしい。

委員

伴走形の子育て支援と言う中で、現金の支給がある。友人は都内に住んでいるが、クーポン券をもらったと聞いた。なぜクーポン券かと言うと地域の事業を利用するため。応援給付金を現金で配布すると言うのも大切だと思うが、地域にあるサービスを使うきっかけとして使ってほしい。現在、市には助産師さんが多く産前産後を支えてくれる人たちがたくさんいる。しかしそのサービスを使うためにはお金が必要で、使ってみて良くない場合もある。子育てし始めたときには冒険する余裕は無い。クーポン券を使うことで、地域の人につながるような工夫をしてほしい。孤立化してしまってからでは遅い。その地域でどのような人につながって、どのような働きかけをしていくかが重要である。ネウボラ推進課で網羅すると言うよりは、地域のサービスを使って地域で支える形を作りたい。民間でも一時預かりサービスはある。そのようなところを活用してほしい。

委員

自分の友人はファミリーサポートで、他人の子どもを送迎したりしている。利用している人もいるし、自分がファミリーサポートをしている人もいる。保護者の皆さんにもそういった制度の活用を促すような情報発信をして、知ってもらわないといけない。

(7)北杜市結婚新生活支援補助金について

(8)北杜市転入子育て世帯家賃補助金について

－資料に基づき事務局から説明－

議長

質問等あるか。

委員

補助金や助成金の年齢制限と言うのは、例えば新婚生活であれば40歳未満など上限を設けることについて、何か理由があるのか。自分は子育て世代の真ん中でいるつもりであるが、親の年齢で助成金を受けられないと言う経験をしたことがある。せっかくの補助金であるので、年齢制限をしないでほしい。子育てに関する補助金で、親の年齢を制限にすることに疑問を持っている。

事務局

結婚新生活支援補助金については、あくまでも国の制度に則ったものであるので、国の基準に準じて年齢制限を設けている。一方、転入子育て世代家賃補助金については、親の年齢によって補助金を受けられないと言う声を受け、親の年齢に制限を設けていない。中学生以下の以下の子どもがいる世帯であれば補助金を受けられる。

委員

市内の子育てに関わる補助金や助成金について、親の年齢は取っ払われたのか。

事務局

同じような住宅補助事業として、マイホーム補助金が挙げられる。この補助金については、制度設計の時点から、お父さんお母さんともに50歳未満の制限がある。これは所得が少ない若い世代が家を建てるときに、経済的な支援をするもので、ある一定程度の年齢になれば所得が多くなっていくことを考慮し、年齢制限を設けさせていただいたものである。

委員

自分の夫は農業で、厳しい生活を強いられている。ある程度年齢がいったら所得が増えると言うのは時代に合わない。年齢制限は全てにおいて取っ払っていただければ、子育てするなら北杜市になるのではないか。

議長

その他、ご意見があればお願いしたい。

委員

白州小学校の中に白州の学童が移ると言う話を聞いて、自分は4-5年前に要望を出していたので、それが実現して嬉しい。児童館はすべての町にあると思っていたので、そうではないと言うことを聞いて驚いた。

委員

こどもランドこどもパークについては、今まで出てきた意見を計画に反映していただけてありがたい。自分の周りでも認知度が低く、その後の進捗について知らないことが多いので、浸透していないのかなと言う印象がある。市の政策を、必要としているところに届けると言うところまでをやっていただけるとありがたい。

現在、子どもたちは多様化していて、放課後の居場所が少ないと感じている。集団の中に入れない子もたくさん出てきている。放課後児童クラブや児童館に入れない子もいる。支援が必要な子どもたちの居場所が増えていったらいいと思う。

委員

保育士の確保については待遇を上げるというのが大切なことだと思う。このような会議で声を上げていくことが大事だと思う。

委員

こどもランドこどもパークがとても楽しみである。これまでは葦崎やみだい公園に遊びに行っていた。ぜひ使い勝手の良い居心地の良い施設を作っていただきたい。
自分が主任児童委員と言う立場で保育園に伺った際、園長先生から保育士の待遇改善をぜひお願いしたいと言われた。ぜひ検討してほしい。

以上